

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立太子橋小学校

令和 7 年 5 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「いじめへの対応」については、各学年、学期に一回のいじめアンケートや心の天気の利用を適切に行うだけでなく、日頃から子ども理解に努め、子どもから発信されるわずかな心の変化を子どもの表情・行動・態度から看取るように共通理解してきた。子どもの安心安全な学校生活を最優先事項として取組を進めてきているので、学期ごとのいじめアンケートの結果については大きな問題なく進めることができている。しかし、相手を傷つけるような言葉遣いや自分の感情を抑えられずトラブルを起こしてしまう児童が少なからずいる現状である。「不登校への対応」については、各担任が対応するだけでなく特別支援学級担当や養護教諭など教職員全員で取組を進めるようにしている。また、スクールカウンセラーや子サポネット等とも連携して不登校児童及びその保護者を支援している。児童用パソコンの活用を図り、オンラインを通して授業参加できるよう工夫も行ってきた。その結果、不登校児童の在籍比率は減っているものの、一定数不登校状態の児童はいる。

「言語活動・理数教育の充実」及び「主体的・対話的で深い学び」については、研究教科の授業を中心に交流を取り入れ、目標に迫るコミュニケーションを目指し、学年の実態に応じた取組を進めてきた。その結果、有意義な話し合い活動により授業が活性化し、考えが広がったり深まったりする場面が増えている。多くの学年で経年調査の調査の標準化得点が 100 を上回るようになってきているが、さらなる思考力・判断力・表現力をつける授業改善が必要である。「英語教育の強化」については、低学年からのモジュールタイムでの取組や C-NET とのきめ細かい打ち合わせを通じた高学年での系統だった英語学習等で、子どもの英語力を付けてきた。「体力・運動能力向上についての取組」については、全国体力運動能力調査の数値を男女とも多くの種目で全国平均を上回る結果となっている。

「ICTを活用した教育」については、子どもたちの中で ICT 機器を使うことが日常化してきている。今後は、子どもたちが自分の考えを効果的に表現することができるような活用の仕方を考えていく必要があると考える。「働き方改革」については比較的定着しつつあり、本校の時間外勤務時間は大阪市の平均時間外勤務時間より少ない。今後も「ゆとりの日」の設定を増やしたり、専科制度の充実を行ったりして、さらなる働き方改革を進めていく必要がある。「教員の資質向上・人材の確保」については校内研修の充実を図ってきた。今後も若手教員が力をつけるような研修を積極的に計画して取組を進める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合について、令和7年度末までの4年間の割合を平均して＜70％＞以上にする。
- 年度末の校内調査において、令和7年度末までの4年間の不登校児童在籍比率を平均して＜5％＞以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における平均正答率の標準化得点をすべての学年で毎年＜98＞以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合について、令和7年度末までの4年間の割合を平均して＜70％＞以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合について、令和7年度末までの4年間の割合を平均して＜60％＞以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、学習者用端末を使用した日数(ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)を＜100％＞にする。
- 令和7年度、教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合(基準2)《学校園における働き方改革推進プランより》を＜85％＞以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を＜78％＞以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を＜50％＞以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を＜75％＞以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50％以上にする。〔ただし事務局が定める学校行事等ICT活用に適さない日数を除く〕

○時間外勤務時間が30時間以下の人数を毎月15名以上にする。

○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を14％以下にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立太子橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を＜78%＞以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 子ども理解に努め、子どもから発信されるわずかな心の変化を子どもの表情・行動・態度から看取ることを教職員の共通理解とし、子どもの安全・安心な学校生活を最優先事項として取組を進める。	
指標 ・学期に1回のいじめアンケートの実施や心の天気など、子どもから発信される心の変化をとらえ、いじめに発展しないように日頃から早期発見・早期指導に努める。また、「いじめとはどんなにひどいことなのか」や「どんな理由があってもいじめはいけないことだ」という意識をもてるように『いじめについて考える日』を活かしたり、常日頃から指導したりする。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 家庭への電話や訪問などの機会を通して児童と学校とがつながる機会を適切に設けるようにすると共に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど専門家の協力も得ながら不登校児童の在籍比率を減少させるようにする。	
指標 ・学期に1回以上スクリーニング会議をもち、支援を必要とする子どもの早期把握、適切な支援の早期開始につなげるようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立太子橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を＜50％＞以上にする。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を＜75％＞以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 研究授業を通して、考えを深め、高め合う児童の交流の在り方について検証していく。 ----- 指標 ・年6回の研究授業・研究討議会で児童の交流の在り方について検証したことをまとめ、共有することで、日々の授業で活かせるようにする。 ・校内児童アンケート「授業中、思ったことや意見を友だちと伝え合うことができます」に対して、肯定的に回答する児童の割合を＜80＞％以上にする。	
取組内容②【5 健やかな体の育成】 児童が運動をしたり、体を動かしたりする遊びに取り組めるように、学校行事、たてわり活動、児童会活動等の全教育活動を運営する。 ----- 指標 ・校内児童アンケート「健康に気をつけ、すすんで運動しています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を＜90＞％以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立太子橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用に適さない日数を除く〕 ○時間外勤務時間が 30 時間以下の人数を毎月 15 名以上にする。 ○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を 14% 以下にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT スキル向上のための研修会を企画し、実施する。 デジタル教材活用を推進するための環境を整備する。 非常時対応力の強化に取り組む。	
指標 ・個別学習や繰り返し学習としての「navima」等のデジタルツールを効果的に活用できるよう、年度内に 1 回以上、活用方法等を学ぶ研修会を実施する。 ・児童への連絡として「Teams」や「スクールライフノート」等を活用し、児童が毎日 ICT 機器を使用する環境を整え、使用率を高めるようにする。 ・調べたことを発表ノートにまとめグループで交流したり、クラス全体に発表したりできるように「SKYMENU Cloud」を活用していく。 ・デジタル指導書やデジタルツールをより活用しやすくするために、学習プラットフォームである「まなびのポータル」をさらに整備する。 ・学習者用端末を活用した朝学習を週 2 回以上実施する。 ・ICT 機器を効果的に活用した算数科の授業について検証していく。 ・年度内に、「双方向オンライン学習」を 1 回以上実施する。	
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の時間外勤務縮減に向けて、日課表や時間割、行事の見直し等を行い、業務の効率化に取り組む。	
指標 ・本年度変更した日課表等について検証していく。 ・デジタルツールを活用し会議資料をクラウドで共有する等、ペーパーレス化を進めるとともに、教員間や地域・保護者との情報共有を効率的に行うことができるようにしていく。 ・プール清掃を外部人材に委託するなど教員の負担を軽減するとともに、「ゆとりの日」を昨年度より多く設定する。 ・自己の時間外勤務時間を把握し、各人が効果的な働き方を目指すように努める。 ・行事ごとに PDCA サイクルのプロセスを確実に実施し、学校行事の頻度や内容について見直しを行う。	

<p>取組内容③【８ 生涯学習の支援】</p> <p>自ら生き生きと読書に親しむことをめざし、言語力、感性、創造力、表現力を育む読書習慣を形成できるよう、読書環境を整備・充実させる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に１回、始業前に読書タイムを設定・実施するなど読書指導を教育課程に位置づける。 ・１０月・１１月に読書週間を設定し、読書に対する児童の関心・意欲をさらに高めるようにする。 ・「読書カード」の記録を学期ごとに表彰するなどして、読書意欲を持続させるようにする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	